

# 民主主義と成熟： メディア社会

東京大学大学院情報学環

林香里

‡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

# 私の経歴

- 1988-1991年 ロイター通信東京支局勤務
- 2004年～ 大学院情報学環 メディア・ジャーナリズム研究領域

# 大学院情報学環：新聞研→社情研からの発展、成熟

- 1929 小野秀雄 東京帝大新聞研究室設立  
(大学のアカデミズムで認知されず、研究所昇格は文学部教授会の反対で阻止される)
- 1949 東大新聞研究所を設立 ←GHQの指導
  - 新聞学＝歴史研究からマスコミ研究＝社会心理研究へ
- 1992 社会情報研究所に改組
  - マスコミ研究から情報社会研究＝社会科学の学際的研究へ
- 2004 大学院情報学環と合併 ←国立大学独法化
  - 理系・コンピュータ科学との連携・融合(デジタル・コンテンツ)

# 本日の講義

## 1. マスメディアの発展と成熟

- 1.1 日本におけるマスメディアの量的発展と多様化
- 1.2 20世紀マスメディアの発達と21世紀の成熟

## 2. ジャーナリズムの発展と成熟

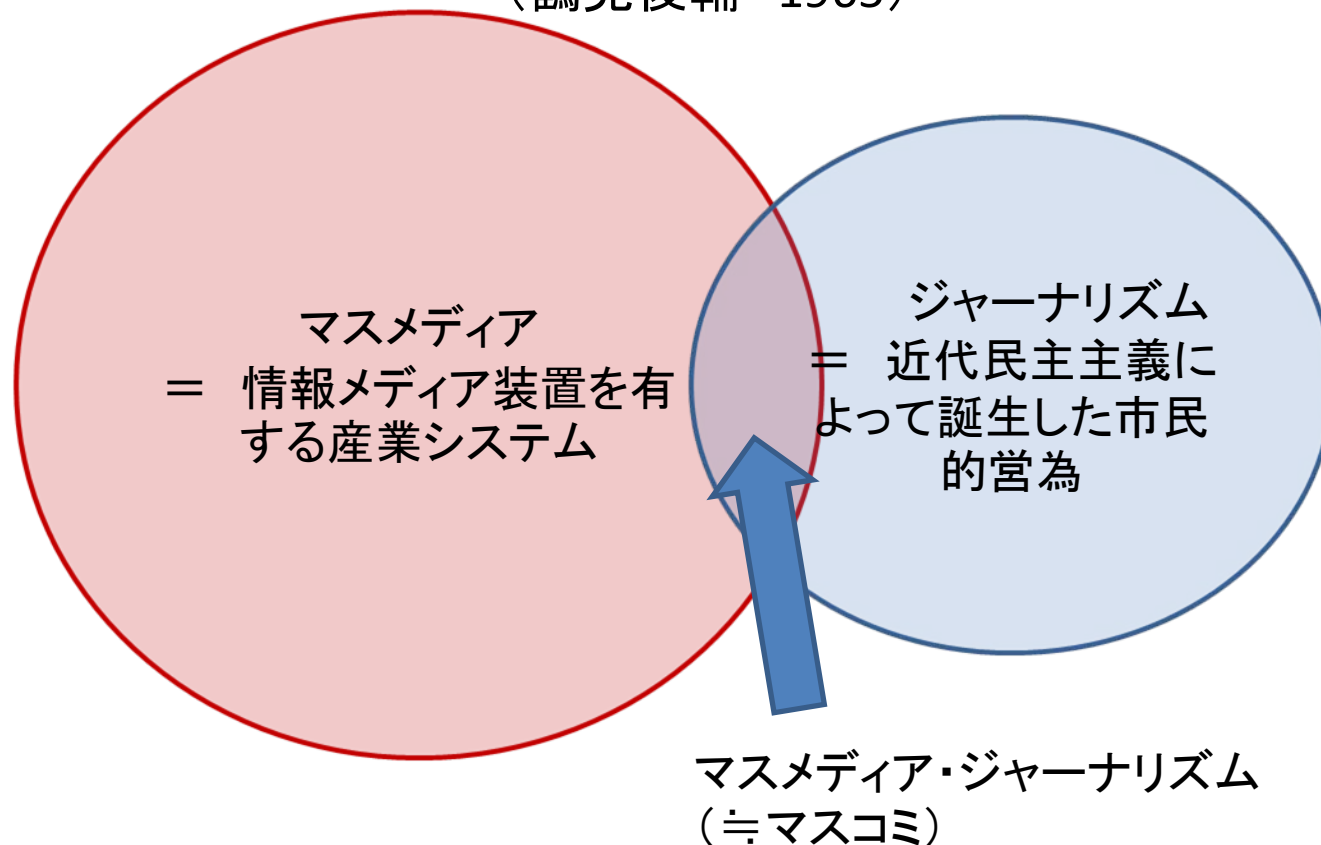
- 2.1. 18世紀ジャーナリズム誕生時の理想
- 2.2 21世紀マスメディア・ジャーナリズムの現状

## 3. 民主主義の成熟、メディアの課題

# マスメディアとジャーナリズムの峻別

- ・「ジャーナリズムとは、単に新聞をさすものではなく、同時代を記録し、その意味について批判する仕事を全体としてさす」

(鶴見俊輔 1965)



# 本日の講義

## 1. マスメディアの発展と成熟

- 1.1 日本におけるマスメディアの量的発展と多様化
- 1.2 20世紀マスメディアの発達と21世紀の成熟or衰退？

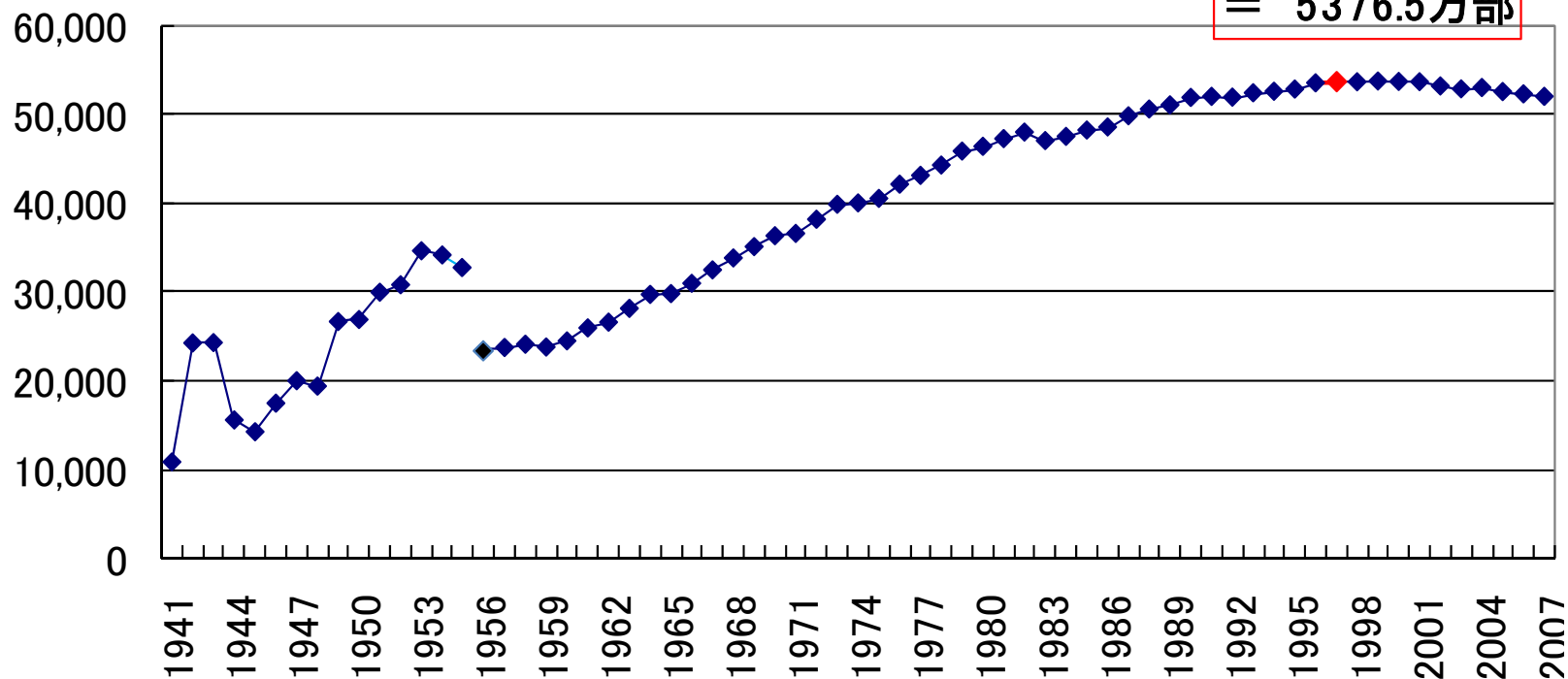
## 2. ジャーナリズムの発展と成熟

- 2.1. 18世紀ジャーナリズム誕生時の理想
- 2.2 21世紀マスメディア・ジャーナリズムの現状

## 3. 民主主義の成熟、メディア社会の課題

# 新聞発行部数(千部)

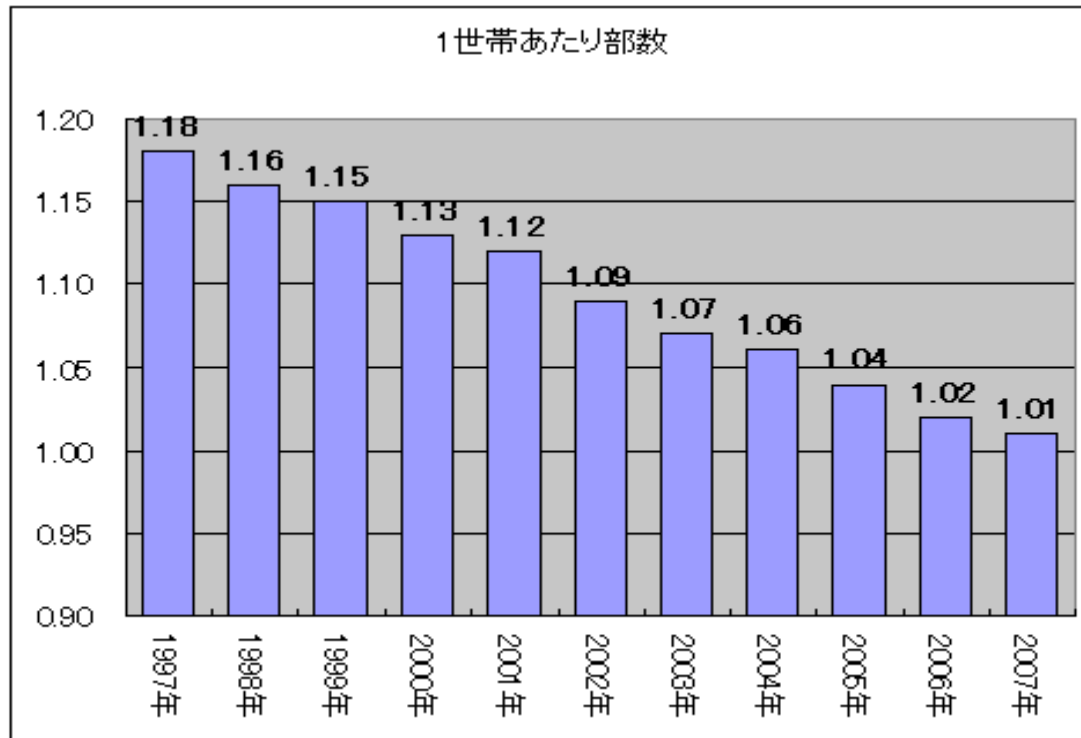
最高値 1997  
= 5376.5万部



『日本新聞年鑑』により作図

(戦後は1956年より、日本新聞協会会員社の発行部数に限り合計。)

# 新聞一世帯あたり部数



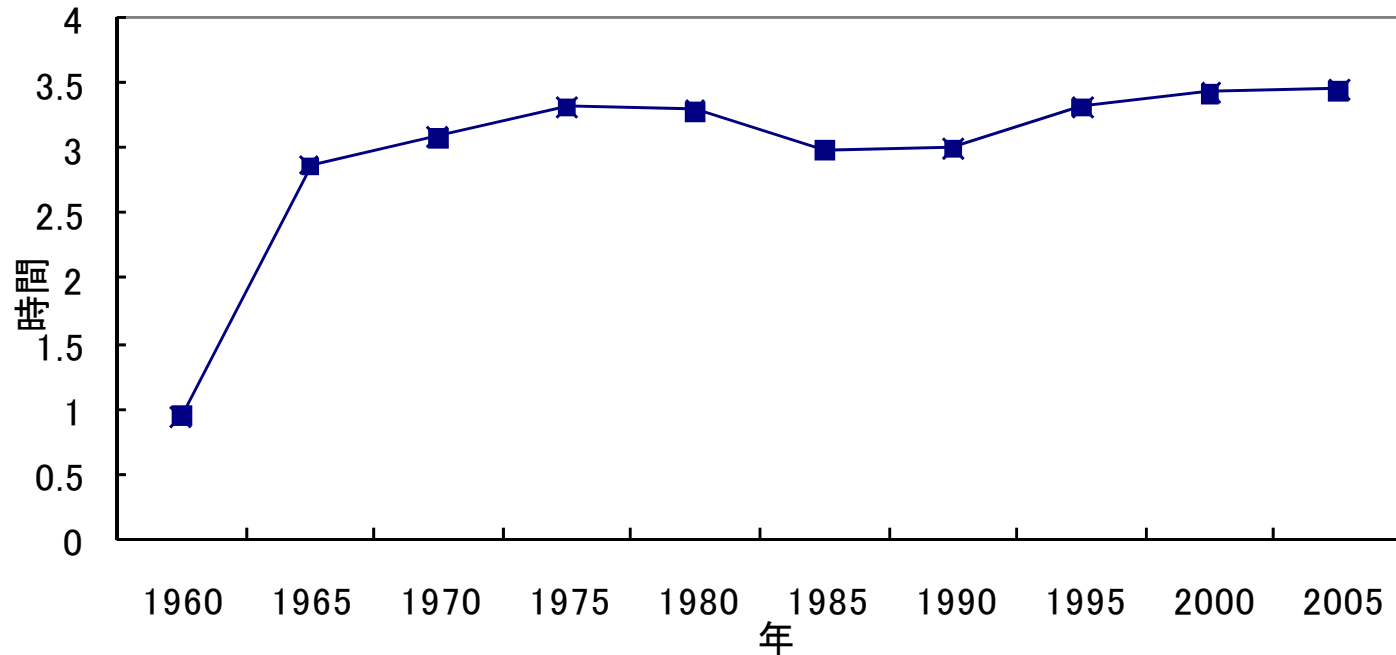
日本新聞協会調査統計より



## ちなみに、、日本はいまでも新聞大国

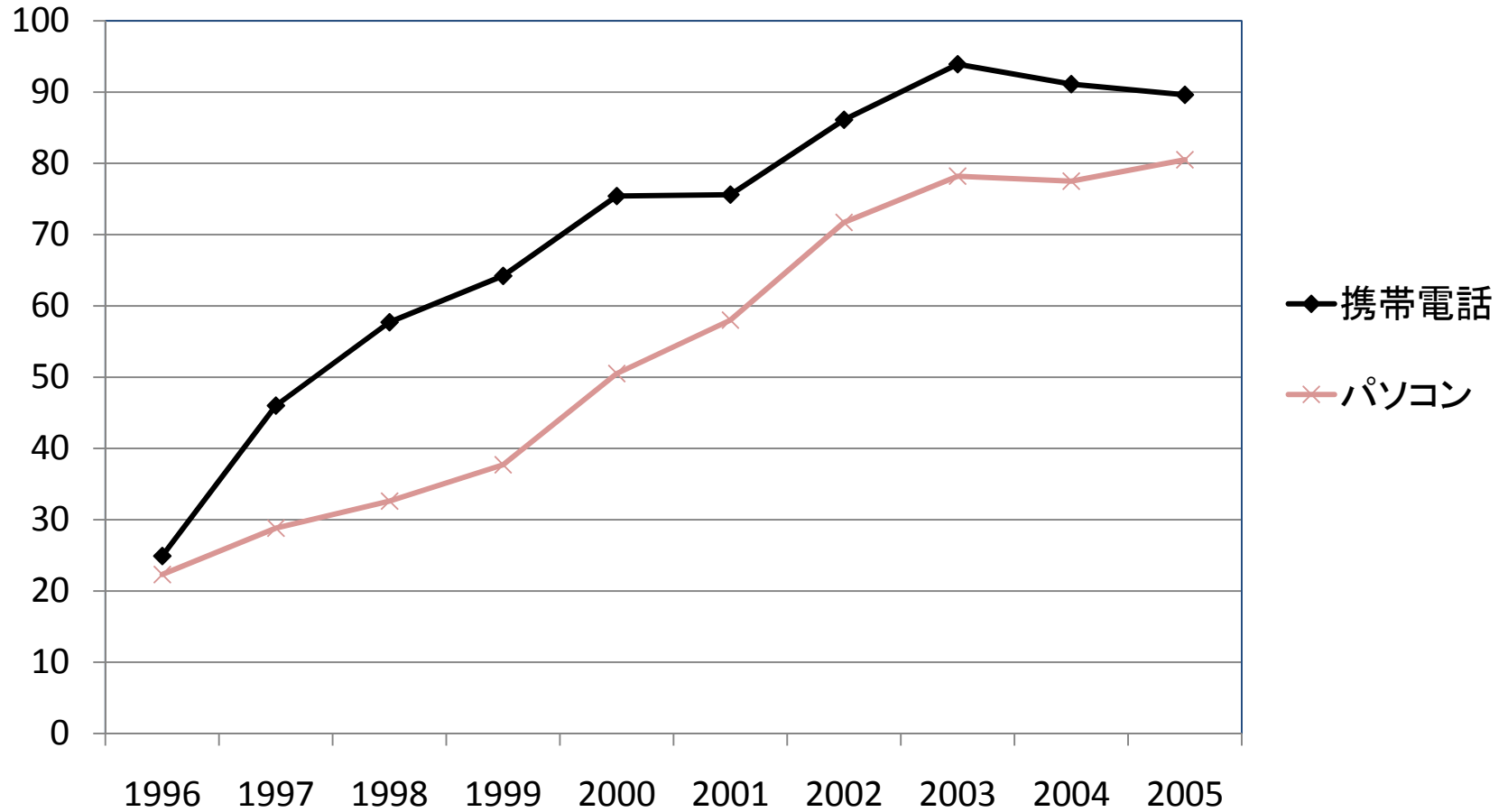
- 日本 631部／成人人口1000人あたり
- スイス 554部
- 韓国 485部
- 英国 385部
- ドイツ 300部
- 米国 259部
- 中国 105部

## テレビ視聴時間量(平日)



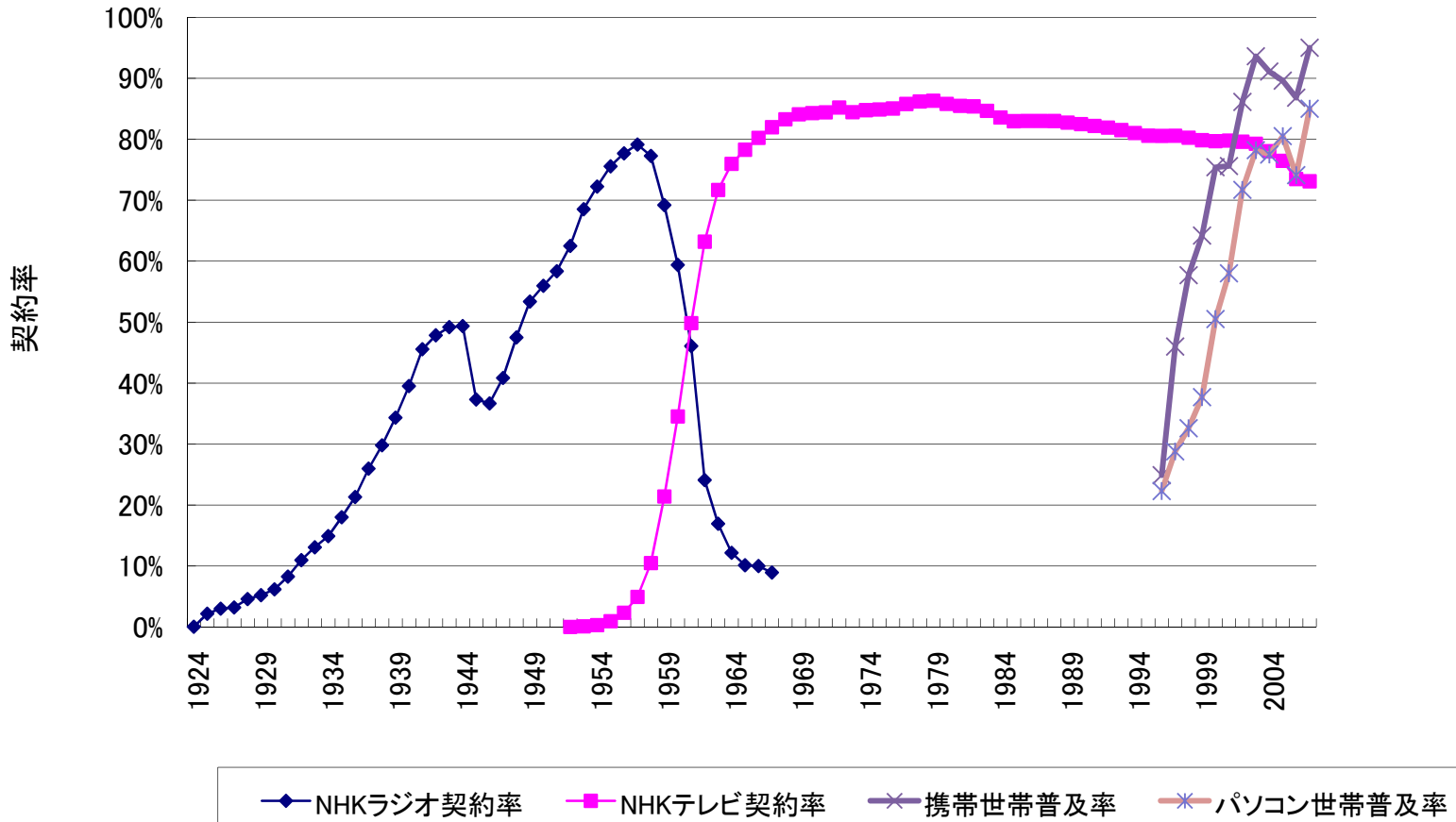
『日本人の生活時間』(日本放送協会放送世論調査所／放送文化研究所編)  
により作図

# 携帯電話、パソコンの世帯保有率(%)



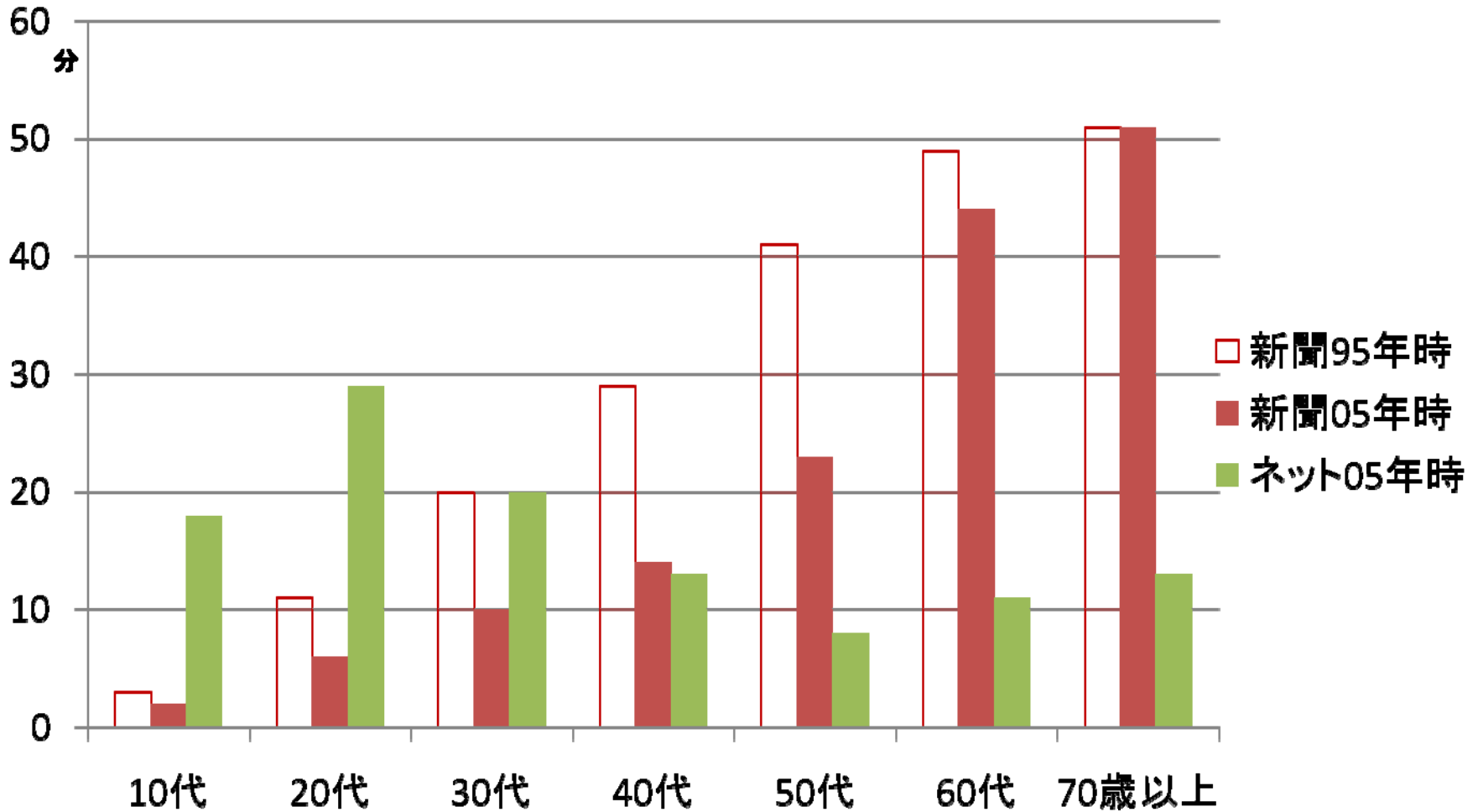
(出典) 総務省「通信利用動向調査」

# 日本における各種世帯メディア普及状況

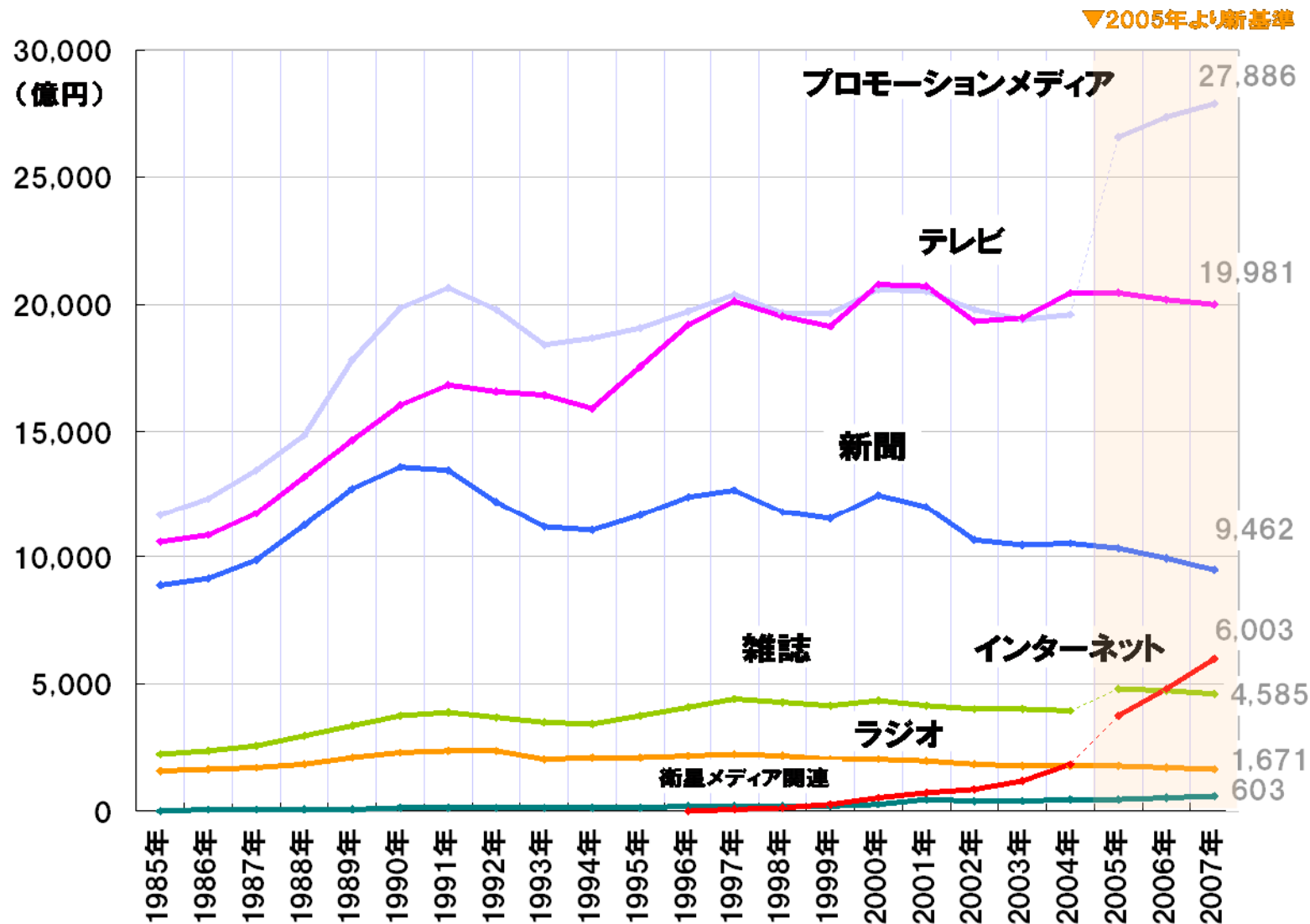


# 新聞とネットの利用時間(男性、平日)

NHK放送文化研究所「国民生活時間調査2005年」



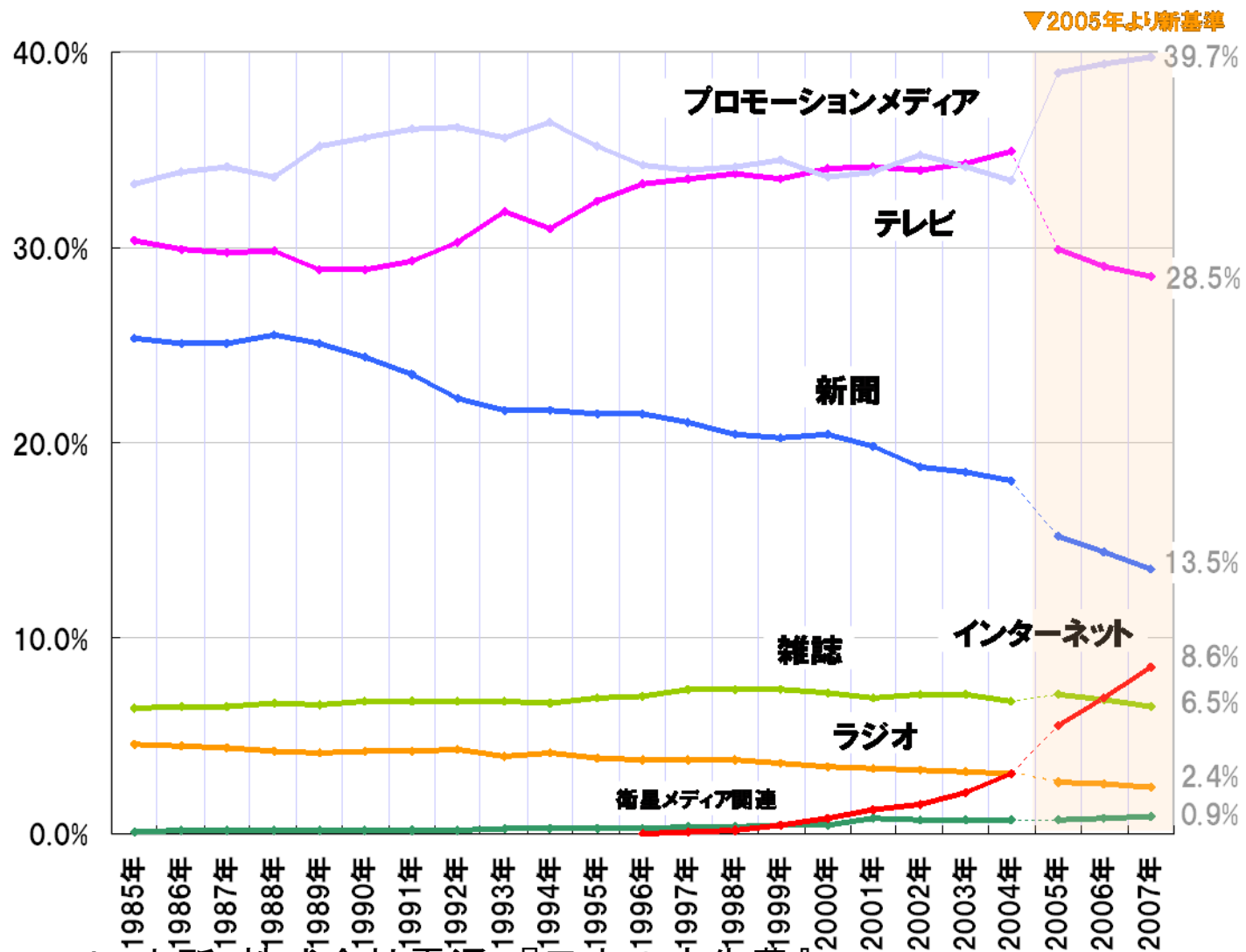
# 日本の広告費（電通） 広告市場をめぐる戦い



出所：株式会社電通『日本の広告費』

出典：電通『日本の広告費』、2007年に、「プロモーションメディア」、「インターネット」、「雑誌」は、定義・対象が変更となった。2005年、2006年については週って集計されたが、2004年以前の上記3項目は旧基準のため単純比較はできない。

# 日本の広告費 メディア間のシェア争い（電通）



出所：株式会社電通『日本の広告費』

出典：電通『日本の広告費』、2007年に、「プロモーションメディア」、「インターネット」、「雑誌」は、定義・対象が変更となった。2005年、2006年については週って集計されたが、2004年以前は旧基準でのシェアのため単純比較はできない。

# 20世紀マスメディアの発展

## 政治的・文化的帰結

- 情報の大衆化、平準化→大衆文化の隆盛、女性や子ども、労働者など、社会的弱者への情報／文化の普及  
(イエロー・ジャーナリズム(大衆紙)やワイドショー文化)
- 政治への無関心、無力感
- ステレオタイプ(紋切り型)報道による大衆世論操作(W.リップマン 『世論』掛川トミ子訳、1922年＝1987年、岩波文庫)



# 21世紀の**マスメディア**の成熟、、、そして衰退

- 20世紀後半から、多チャンネル・多メディア化による社会的知識基盤の多元化、個人化：「国民的」番組、新聞、雑誌の消滅へ（佐藤卓己 『『キング』の時代—国民大衆雑誌の公共性』岩波書店、2002年）
- “Mediokratie”（メディア政治： Thomas Meyer *Mediokratie*. Suhrkamp. 2001） 「マスメディアが政治を植民地化することによって政党や議会の機能を失効させること」 小泉政権、サルコジ政権、米国大統領選挙など。
- ネットなど新しいメディアの台頭、プロのジャーナリストではない素人（個人）が発信する情報の普及

# 本日の講義

## 1. マスメディアの発展と成熟

- 1.1 日本におけるマスメディアの量的発展と多様化
- 1.2 20世紀マスメディアの発達と21世紀の成熟or衰退？

## 2. ジャーナリズムの発展と成熟

- 2.1. 18世紀ジャーナリズム誕生時の理想
- 2.2 21世紀マスメディア・ジャーナリズムの現状

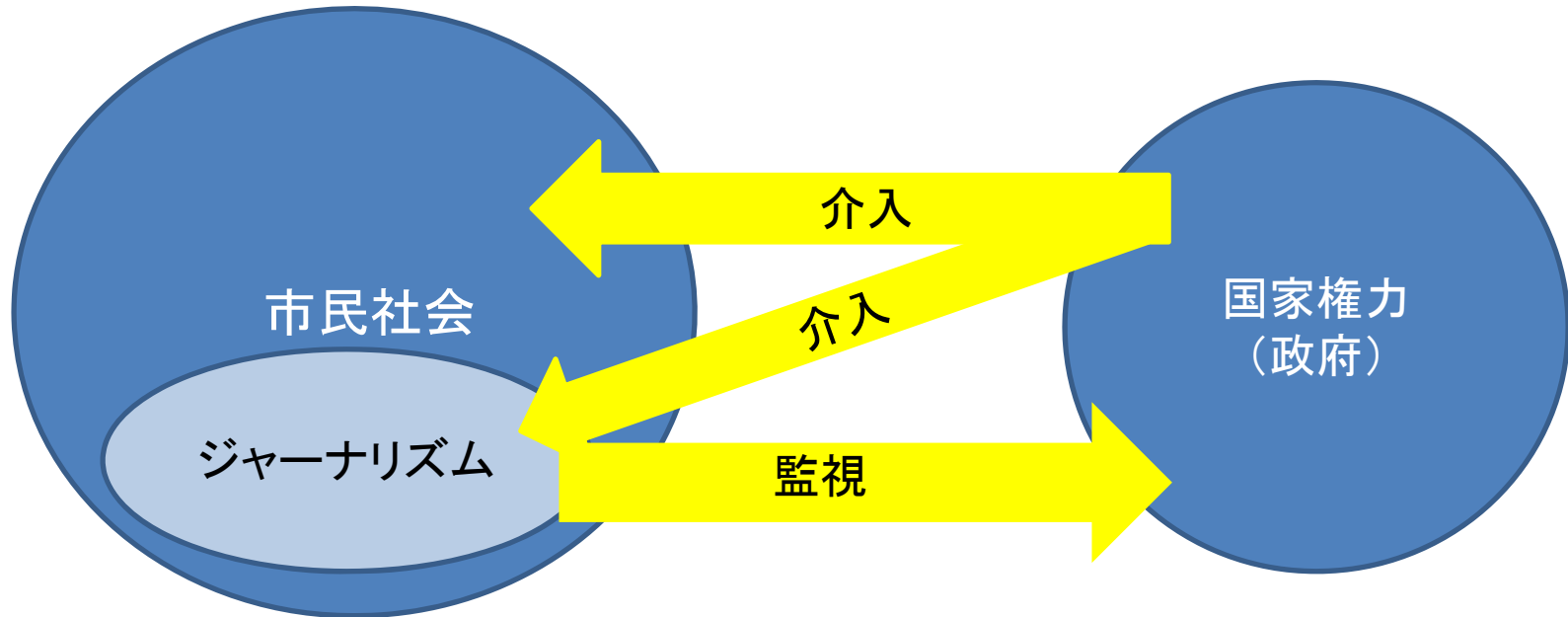
## 3. 民主主義の成熟のためのメディアの課題

# 18世紀ジャーナリズムの誕生時の理想

- 市民革命によって誕生した主体的、自律的個人の生活に奉仕する言論活動
- 「思想(宗教)・表現・言論の自由」の行使による社会改良  
(「思想の自由市場」説)
- 国民全員が政治参加するための「公共的知識」基盤の供給。
- 権力を監視するための批判的言論媒体。

# 近代初期におけるジャーナリズムの役割

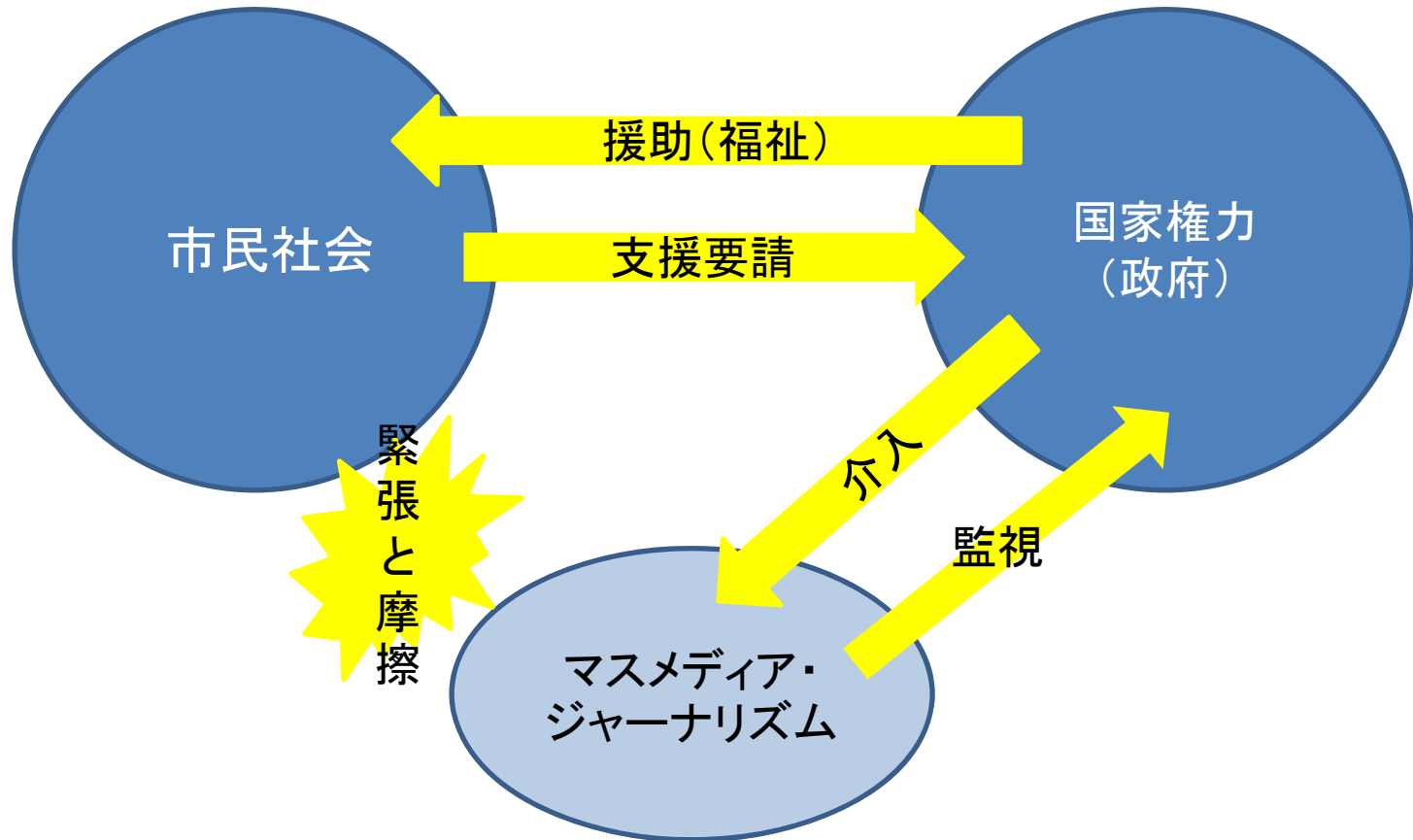
- 市民社会の代理人として言論によって権力を監視する機能



近代初期におけるジャーナリズム

# 20世紀以降のマスメディア・ジャーナリズムの構図

- メディアは市民社会と独立した機構へ



現代メディア社会の構図

# マスメディア・ジャーナリズムと市民社会 の緊張関係

- 市民社会における重大な権利侵害:「報道被害」 メディアスクラム、誤報、実名報道、メディア裁判  
梓澤和幸『報道被害』岩波新書、2007年。
- 国家権力との癒着による市民目線の喪失、国家権力の圧力による報道の歪曲:国会審議に先立つNHK事業計画、予算案の自民党内審議・承認の慣行、地方局放送免許の新聞各社へのばらまき、国有地払下げ、など。
- 市民を「消費者」として見なすメディアと市民側のメディア不信の増幅。売り上げ部数、視聴率至上主義の懐疑

# 本日の講義

## 1. マスメディアの発展と成熟

- 1.1 日本におけるマスメディアの量的発展と多様化
- 1.2 20世紀マスメディアの発達と21世紀の成熟or衰退？

## 2. ジャーナリズムの発展と成熟

- 2.1. 18世紀ジャーナリズム誕生時の理想
- 2.2 21世紀マスメディア・ジャーナリズムの現状

## 3. 民主主義の成熟、メディアの課題

# 民主主義成熟へのメディアの課題

1. 「自由」理念からの課題
2. 「平等」理念からの課題
3. 「連帯」理念からの課題



# 民主主義の成熟へ:メディアの課題

## 1. 自由

自由主義社会では、積極的に政治に参加する成人市民の存在が不可欠である。自由≠放縦

- 情報の質を判断できる自律した個人の確立
- 複雑な政策と日常生活をつなげる情報・知識基盤
- 社会のルールや課題を討議し、意見を戦わせる公共の討論空間の確保

# 民主主義の成熟へ：メディアの課題

## 2. 平等

- 経済的格差不平等という差異の可視化、解消（階級、階層間の是正）←20世紀までの労働運動
- 文化的差異の了解と承認：先住民族や移民者をはじめとするマイノリティの文化を承認し、それらを保護すること。
- 女性、外国人、高齢者、子ども、病気、障害などについて社会的に作られたステレオタイプの見直し。

# 民主主義の成熟へ：メディアの課題

## 3. 連帯

- 地縁、血縁を超える、さまざまなテーマをもとに集まる自由なつどい(アソシエーション)の構築のための支援
- 誰もが参加して自己と他者を結ぶことを可能にする双方向のコミュニケーションの創出

# 成熟した民主主義とメディア

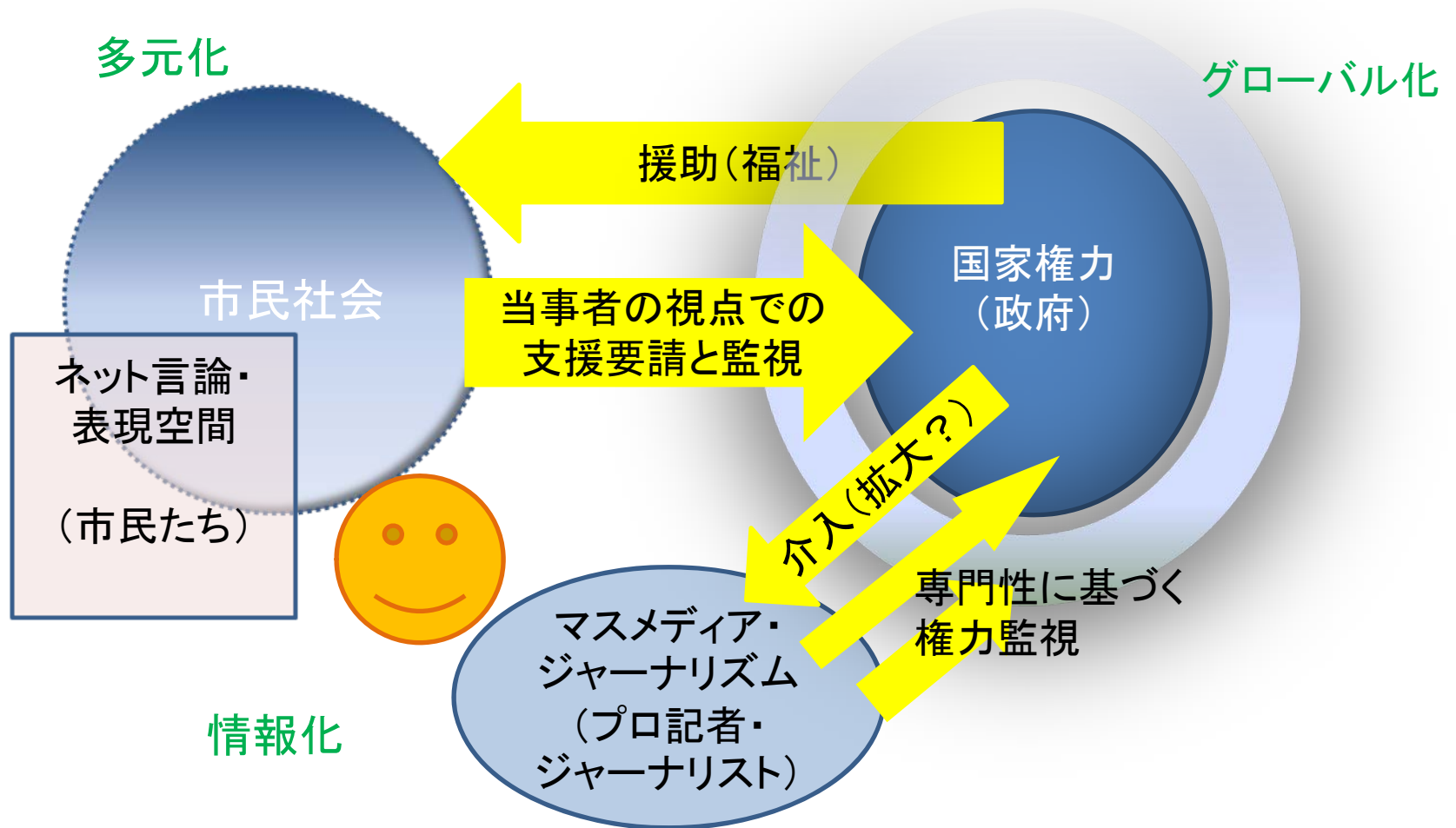
では、以上のような課題に答えられるように、どのようにメディアを使っていくべきだろうか。どのメディアがどの課題にふさわしいだろうか。

ネット？ ブログ？ 新聞？ テレビ？ 論壇誌？ ラジオ？

# 変貌すべきマスメディア、ネットとの協調時代へ

- だれもが参加できる双方向的コミュニケーション、討論の場を提供するネットメディアが民主主義社会の成熟に貢献する可能性は高い。
- しかし、ネットを周縁化したり無法地帯として放置するのではなく、民主主義に貢献するような設計、制度化を試み「思想の自由主義」の再興をはかる。
- その際、マスメディアは、成熟したメディアとして、ネット空間のイメージアップや新たな秩序の制度化に協力することができるはずだ。

# 21世紀のジャーナリズム



現代メディア社会の構図

新聞・雑誌などの職場をすでに与えられた者の活動を超えて、市民のなしうる記録活動全体の中にジャーナリズムの根を新しく見出すことに日本のジャーナリズムの復活の希望があると思う。

(鶴見俊輔 『ジャーナリズムの思想』筑摩書房、1965年)